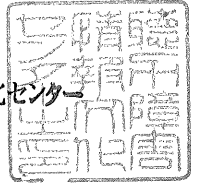


第26回手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）学科試験の 合格基準及び正答について



1. 合格基準

社会福祉法人聴力障害者情報文化センター

次の条件を満たした者を学科試験の合格者とする。

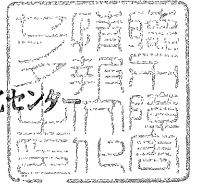
全ての科目において得点があり、かつ、4科目の総得点の60%程度を基準として、必要に応じて問題の難易度で補正した点数以上の得点を得た者。

2. 正答

障害者福祉の 基礎知識		聴覚障害者に 関する基礎知識		手話通訳のあり方		国 語	
設 問	正 答	設 問	正 答	設 問	正 答	設 問	正 答
問 1	2	問 1	3	問 1	1	問 1	3
問 2	2	問 2	4	問 2	2	問 2	2
問 3	2	問 3	3	問 3	1	問 3	4
問 4	1	問 4	4	問 4	3	問 4	正答なし ※②
問 5	3	問 5	2	問 5	1	問 5	2
問 6	3	問 6	3	問 6	1	問 6	4
問 7	3	問 7	3	問 7	2	問 7	4
問 8	2	問 8	4	問 8	3	問 8	1
問 9	4	問 9	2	問 9	4	問 9	1
問 10	3	問 10	3	問 10	2	問 10	2
問 11	3	問 11	3	問 11	4	問 11	3
問 12	4	問 12	1	問 12	2	問 12	4
問 13	4	問 13	1	問 13	4	問 13	4
問 14	3	問 14	4	問 14	4	問 14	4
問 15	4	問 15	正答なし ※①	問 15	4	問 15	2
問 16	3	問 16	3	問 16	2	問 16	1
問 17	3	問 17	2	問 17	3	問 17	4
問 18	3	問 18	1	問 18	2	問 18	1
問 19	1	問 19	2	問 19	2	問 19	4
問 20	2	問 20	2	問 20	1	問 20	2

第 26 回手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）学科試験の
採点上の取扱いについて

社会福祉法人聴力障害者情報文化センター



「聴覚障害者に関する基礎知識」問 15

15 文部科学省初等中等教育局「特別支援教育資料(平成24年度)」(2013年6月)によると、平成24(2012)年度に特別支援学校高等部本科を卒業した聴覚障害生徒のうち、就職した者の割合を、下の中から一つ選びなさい。

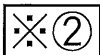
1. 10.9パーセント
2. 14.6パーセント
3. 32.7パーセント
4. 50.3パーセント

採点上の取扱い

全員に得点する。

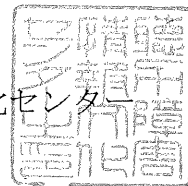
理由（正答欄「聴覚障害者に関する基礎知識」問 15 ※について）

問題文中、「平成 24(2012)年度に」とあるのは、「平成 24(2012)年 3 月に」の誤りである。従って、問題として成立しない。



第26回手話通訳技能認定試験における正答の取扱いについて

社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター



平成27年1月30日に正答を公表した第26回手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）の学科試験問題中、国語の問題4については、次の取扱いとします。

記

学科試験「国語」

問題4 文章中の下線部v「裏」と、部首が同じ漢字を、下の中から一つ選びなさい。

1. 畏 2. 京 3. 初 4. 理

採点上の取扱い

全員に得点する。

理由

この問題のねらいは、漢字の知識を確かめるものではなく、漢字を見る見方が身についているかを確かめる問題として出題している。

具体的には「裏」が「衣」と「里」に、選択肢「3. 初」が「衣」と「刀」に分けられるか、その分析力が身についているかを問うたものである。

したがって、出題意図から正答は「3. 初」となる。

しかしながら、本問は、「部首が同じ漢字を選ぶ」問になっていることから、解答者は一般的な漢字の知識を問う問題と捉え、正答の「初」の部首を受験者によって「衣」または「刀」と理解して解答選択をすることが考えられる。この場合、部首を「刀」と理解した者には正答がないことになる。

部首の捉え方によって、このように正答選択に差異が生じる本問は、問題として適切といえないこと。

なお、この取扱いによる追加合格者はありません。